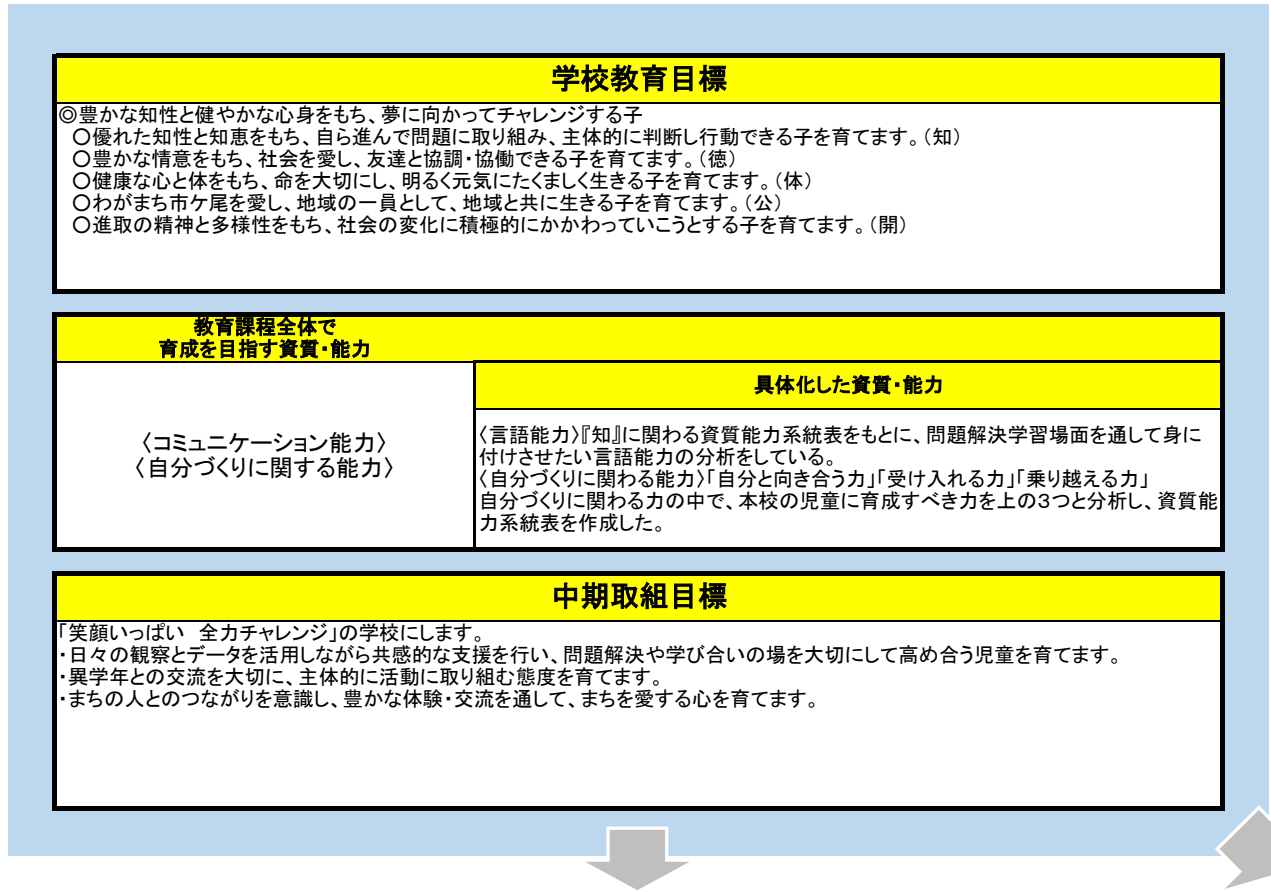


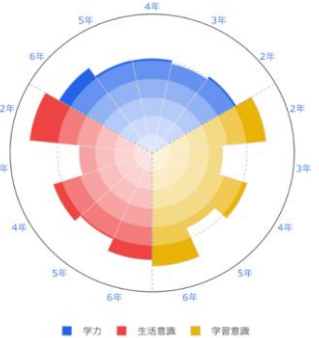


学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①単元や一単元時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。本時のめあての確認と、まとめ・ふり返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に学習を進められるように活動の場を工夫し、活動時間を十分にとる。日々の観察とデータの分析、活用を図り、共感的な支援を行う。 ②全ての教科・領域においてICTの活用を図り、個に応じた学び方や子どもが協働的に課題を探究し、豊かな体験を通して感性を高める授業づくりを進める
担当	C会議・情報活用部

学力向上に関わる本校の状況

＜横浜市学力・学習状況調査＞
令和7年度



どの学年も全体的に横浜市の平均と同等の学力が身に付いている。

生活意識と学習への意欲は結びついており、学年によって差が大きくなっている。

＜年度末学校評価＞

項目	評価	割合・達成率 (%)
2-1 (子どもたちが授業を理解していますか。)	とても	92%
2-2 (子どもたちが授業を理解していますか。)	まあまあ	86%
2-3 (子どもたちが授業を理解していますか。)	やや	96%

授業を理解していると答えた児童が多く、基礎的な学力が身に付いている。自ら進んで、主体的に学ぶ姿勢をさらに身に付けたい。

今年度の目標

毎時間の授業で、めあてをもって学習に取り組み、自分の学び方をふり返り、より主体的に取り組む力を育成する。ICTを効果的に活用するとともに、お互いに学び合い、様々な体験の中で感性を高める授業づくりを進める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

○自分のめあてをもち、学習をふり返る場を設ける。
・紙のノートと合わせて、タブレットでのロイロノートも活用し、めあてに対してどのようなことを学んだか、もっと知りたいことは何かなど、自らの学習をふり返って調整する力を育てる。
○お互いに学び合う場を設ける。
・場の設定の工夫
子どもたちが安心して学習に取り組んだり、発想を広げて話し合ったりできる場を設定する。
・教師が子どもたちの思いや活動に寄り添った支援をしていくことで、一人ひとりが安心して自分の考えを表現し、相手の思いを受け止めることができるようにしていく。
○体験的な学びを充実させる。
・実際に地域や自然の中で学んだり、人と出会って話をしたりすることで、学んだことを実感し、豊かな感性を育てることができるようにする。
○データを活用して、学力の向上を図る。
・学力・学習状況調査の結果や日々の授業でのデータをもとに、各教科の伸ばしたい力を明確にし、授業改善に役立てる。

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①学校教育全体と道徳科を関連させる計画を立て、今の自分に足りない見方、考え方(特に、たくましさ、正しさ、めりはり、自立・自治に関わる内容項目)に気付かせ、問題意識を高める。②児童一人ひとりが価値を把握することができる道徳科授業を担当が行う。③児童が聴き合い、語り合う中で自分の考えを深め、自己の振り返りを充実させる支援を工夫する。
担当	道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
令和7年度の生活意識調査では「自分のことが好きですか。」の項目で、対象学年である2年生以上のうち、4つの学年で「好き」と回答している児童が市平均を下回る傾向にある。また、「相手の立場になってその人の気持ちを考えるようにしていますか。」の項目では、2つの学年が横浜市の平均値を上回り「している」と回答している。

＜横浜市生活意識調査＞



(2)これまでの学校の取組状況
道徳教育の要となる道徳科の指導を通して、子どもが道徳的見方・考え方・感じ方を多様に広げ、自己を深く見つめ、よりよく生きようとする道徳的実践力を身に付けられるよう授業づくりを進めてきた。

今年度の目標

自分づくりに関する能力として「自分と向き合う力」「受け入れる力」「乗り越える力」を全ての教育活動の中で育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

学校全体で取り組む具体的行動プラン
①道徳の授業研究による授業の充実により、児童一人ひとりの道徳的実践力を育み、その習慣化を図る。＜自分と向き合う力＞
②主に特別活動においての「ペア学年活動・互いの考えを尊重し合う活動」を重視して、児童同士の「思いやりや心」や「優しい心」を養い自己有用感を培っていく。＜受け入れる力＞
③思いや願いをもって主体的に学習に取り組む、その成果を実感できるようにして、自己有用感を高められるようにする。＜乗り越える力＞
各学年の目指す子どもの姿
低学年・・・自分の得意なことや苦手なことを知る。相手の得意なことや苦手なことを知る。困った時に助けを求めることや、対処・回避の方法を知る。お互いのよさを知る。
中学年・・・自分の長所だけではなく短所も知り、生活や学習に生かす。面倒なことや難しいことから逃げず、解決に向けて取り組む。一人ひとりが活動の中で役割をもち、めあてをもち活動を行う。
高学年・・・自分のよさと課題を明確にし、的確に判断し、生活や学習に生かす。他者の行動の理由を、その背景や要因を推し量ろうとし、相手の立場になって考える。お互いに認め合うことができる。

下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①誰もが楽しみながら運動に携われるように、体育の授業改善を図る。②体力テストの結果をもとに、自分の健康状態や課題を知ることができるようにする。また、知った課題をもとに積極的に運動に携われるように委員会などと連携を図る。③保健や特別活動の時間を通して、自分たちでできる病気予防への意識を高める。
担当	体育部・D会議

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
・令和7年度の生活意識調査では、「体を動かすこと(運動すること)は好きですか。」の項目で、どの学年も8割の児童が「好き」「どちらかといえば好き」という回答をしているが、学年が上がることにその割合は減っている。体育の授業では、自分の課題を捉えたりを考えを持ったりしながら積極的に活動する児童が多い。

(2)これまでの学校の取組状況
・外遊び
遊ぶスペースや時間が確保され、休み時間には校庭で多くの児童が体を動かして遊んでいる。
・委員会活動の取組
運動委員会では、中休みに5つの場を用意し、だれもが楽しめるような運動イベントを開催した。給食委員会では、給食が出来上がるまでの様子を動画で撮影し、食に対して、感謝と関心をもてるような取組を行った。

今年度の目標

めあてをもって活動し、ふり返りを活かしながら次時の活動や生活に生かすことができるような授業づくりを進める。体力・健康の保持増進を図ることができる取組を行う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

＜授業での取組＞
○自己の体力向上、健康保持のために、主体的に課題解決する力を育む。
・自己の課題をしっかりと見極め、課題にあった場を選ぶなど主体的に取り組めるような学習を行い、タブレットや学習カードを用い、自己を振り返ることができるようにする。
・養護教諭や栄養職員と連携した授業を行い、実生活や他教科との関連を図る。
＜授業以外の取組＞
○心身の健康な生活を実践する態度を育む。
・「誠実に明るく心で生活しようとする態度」の育成を目指した授業づくりを行う。
○規則正しい生活を実践する態度を育む。
・学校医等による健康指導から、学んだことを実践できる力を育む授業づくりを行う。
・委員会と連携し、生活習慣の啓発や運動機械の提供を行う。

下半期